



協造日報

www.jalc.or.jp
第436号

2010年7月10日

発行/社団法人日本造園建設業協会 (Japan Landscape Contractors Association) 創刊/昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03 (5684) 0011 FAX03 (5684) 0012

本号の主な内容

- 2・3面 平成22年度 日造協 通常総会 報告
協会表彰56氏の業績など讃える
平成22年度事業計画の概況、諸活動について
会長新任退任挨拶 (藤巻新会長、佐藤前会長)
- 4面 【学会の目・眼・芽】第14回 鈴木誠
【緑滴】二次製品との違い 風間啓秀



総会議長を務める佐藤四郎会長

平成22年度通常総会を開催

新会長に藤巻司郎氏

日造協は6月22日、東京都千代田区のランドアーク半蔵門で平成22年度通常総会を行った。

総会には冒頭、佐藤四郎会長が挨拶(別掲)。

次いで、ご来賓としてこう維持・活用していくのか

臨席いただいた小林明国土交通省都市・地域整備局公園緑地・景観課長が「公共事業を巡る動きは大きく変化し、緑のストックも相当な水準となり、これからどう維持・活用していくのか

が課題となっている。まさに会員の方々がそれぞれの地域で総合力を発揮するチャンスであり、協会としては、各社で取り組むことのできない大きな課題に取り組む、環境対応など、ますます高まる社会の期待に応えていただきたい」との

授与を佐藤会長が行った。その後、総会議事に先立ち、新財政・運営基本対策についての説明を行い、議事は藤巻会長の退任に伴い、藤巻副会長の退任に伴い、藤巻副会長が新会長に就任。副会長に佐々木吉和氏を再任、新たに和田新也氏、林輝幸氏が就任。佐藤会長の退任挨拶と新二役の紹介、藤巻新会長の挨拶を行った(記事3面)。

また、総会では、「業界実践スローガン22決議」を採択。「造園力!いのちを支える造園技術で、持続可能な未来へ」をスローガン

役員名	氏名	所属及び役職
会長	藤巻 司郎	藤巻園建設株式会社代表取締役社長
副会長	佐々木 吉和	むつみ造園土木株式会社代表取締役社長
	和田 新也	箱根植木株式会社代表取締役社長
	林 輝幸	西武造園株式会社代表取締役社長
理事	磯部 久人(新)	グリーン産業株式会社執行役員
	伊藤 英昌	財団法人緑地管理財団副理事長
	宇坪 啓造	北陸緑化株式会社代表取締役社長
	梅川 真澄(新)	株式会社植木代表取締役専務
	大泉 紀男	株式会社エンジニアリング特別技術顧問
	大島 嘉七(新)	大島造園土木株式会社代表取締役社長
	大塚 守康	社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会長
	大坪 貞保	社団法人高知森と緑の会運営協議会委員
	奥本 寛(新)	株式会社比谷アメニス常務取締役
	小川 陽一	財団法人都市緑化技術開発機構専務理事
	加勢 充晴(新)	加勢造園株式会社代表取締役社長
	鬼頭 慎一	株式会社双葉造園代表取締役
	木上 正真	木上梅香園株式会社代表取締役社長
	久保 和男	株式会社緑地建設代表取締役社長
	熊谷 洋一	東京農業大学地域環境科学部教授
	近藤 公夫	奈良女子大学名誉教授
	酒井 一江(新)	株式会社淡窓代表取締役
	坂上 信明	株式会社昭造園土木代表取締役
	笹本 知	株式会社北海道造園コンサルタント代表取締役
	櫻井 正昭	財団法人自然公園財団専務理事
	下地 浩之	株式会社西原農園代表取締役
	下平尾 郁	造園家
	杉本 正美	九州芸術工科大学名誉教授
	須磨 佳津江	キャスター
	高橋 一輔	アゴラ造園株式会社代表取締役社長
	富田 祐次	財団法人海洋博覧会記念公園管理財団理事長
	新美 芳二(新)	新潟大学名誉教授
	西岸 芳雄	財団法人花普及センター専務理事
	初谷 雄一	財団法人建設業振興基金専務理事
	正本 大(新)	みずえ緑地株式会社代表取締役
	丸岡 大昇	財団法人パーフロント整備センター専務理事
	丸山 宏	名城大学農学部教授
	養茂 寿太郎	公立大学法人熊本県立大学理事長
	山本 一隆	財団法人中国新聞社代表取締役副社長
	涌井 史郎	東京都市大学環境情報学部教授
	渡部 佐野	株式会社内園芸緑化代表取締役
	渡邊 宣昭	株式会社横浜植木代表取締役社長
監事	江口 浩市	財団法人都市緑化基金常務理事
	北田 功	株式会社植木園代表取締役
	矢野 幸吉(新)	株式会社タイキ代表取締役

樹林

当協会は、我が国を代表する造園建設業団体として、昭和46年11月に設立され、約40年の歴史を経てまいりました。この間、会員の皆様方のご支援ご協力のもと業界発展のため、造園技術の向上や全国造園フェスティバルの開催など、造園建設業のPR等にも努めてまいりました。会員の皆様方には深く感謝を申し上げます。

さて、百年に一度と言われた世界的経済不況も一段落し、世界経済は少し上向きに転換しつつありますが、公共

事業の縮減など、建設業を巡る環境は、まだまだ厳しい状況が続いています。平成22年度は、公共事業に大きな変化がありました。

事業を一体的に実施できることとなり、またまだ厳しい時代ではあります。が、会員一同が結束し「環境の世紀」において、生き物を扱う唯一の建設業

提案型で造園建設業の活動領域を拡げよう

(社)日本造園建設業協会会長(現・顧問) 佐藤 四郎



国土交通省は、従来の事業ごとの補助金配分に変えて、「社会資本整備総合交付金」制度を創設いたしました。これによって、地方公共団体は、社会

業の活動領域を広める良いチャンスに基本対策がスタートします。日造協設

業界実践スローガン22
造園力!いのちを支える
造園技術で、持続可能な未来へ

業界実践スローガン22の実践テーマ

- 法令の遵守と企業としての社会的責任を果たす活動を徹底しよう
- 造園建設業は、「生き物である植物を扱う唯一の建設業であること」を、広くアピールすることによって、「環境の世紀」における活動領域の拡大にチャレンジしよう
- 適正価格での受注を推進し、高品質な成果と安全な職場環境を備える、確固たる企業経営に努めよう
- 将来を担う造園技術者・技能者の確保・育成に努め、提案型産業(企業)を目指そう
- 地球環境にやさしい建設業として低炭素社会づくり・生物多様性の環境づくりに貢献しよう

算、事業計画・収支予算、役員選任など、7議案を審議承認。役員選任では、佐藤会長の退任に伴い、藤巻副会長の退任に伴い、藤巻副会長が新会長に就任。副会長に佐々木吉和氏を再任、新たに和田新也氏、林輝幸氏が就任。佐藤会長の退任挨拶と新二役の紹介、藤巻新会長の挨拶を行った(記事3面)。

また、総会では、「業界実践スローガン22決議」を採択。「造園力!いのちを支える造園技術で、持続可能な未来へ」をスローガン

生物多様性と造園建設業

通常総会講演会を開催

講演会は、「生物多様性と造園建設業」をテーマに、熊谷洋一(東京農業大学地域環境科学部教授を講師に迎え、今年3月に決

定、ご自身が取りまじめに行った「生物多様性国家戦略2010」の策定経緯とその概要を中心に紹介。生物多様性の短期目標と

中長期目標として2050年を目標に、人と自然の共生を国土レベル、地域レベルで広く実現、現状以上に豊かなものとし、人類が享受する生態系サービスの恩恵を持続的に拡大させるなど、戦略の概要を示された。



講演する熊谷洋一氏

通常総会 報告

企業経営に向け活動を展開

事業活動の概況

平成22年度は、公共事業に大きな変化がありました。従来、公共事業は、国の直轄事業と地方公共団体の行う事業とがあり、地方公共団体が行う事業の財源として、道路、河川、下水道、都市公園等の事業に補助金が配分されてきました。しかしながら、平成22年度からは、新たに政権を担った民主党が、公共事業について、地方の事業は、地方公共団体の創意工夫で、もっと自由に効率よく行える使い勝手の良い仕組みとして、「総合交付金」

平成22年度は、公共事業の制度を提案したのです。そのため国土交通省は、地方公共団体が行う社会資本整備に関する基幹事業とともに基幹事業の整備に関連して必要となる事業や、基幹事業の効果を高めるための事業（効果促進事業）を一体的に行える「社会資本整備総合交付金」制度を創設しました。これによって、私たちが長く馴染んできた事業ごとの補助金制度は、原則廃止されました。

今年度は、新しい「財政・運営基本対策」がスタートします。全国的な組織としての業界活動を考えますと、会員が全国に幅広く居り、一致結束した活動となる必要があります。近年、色々な事情によって、会員数も平成9年の1611をピークに減少していますが、日造協設立の目的を果たして行くためには、1000会員は必要と見えます。新しい財政・運営基本対策はスタートしますが、引き続き組織体制のあり方、会費のあり方等について検討を進めるとともに協会活動の活性化に何が必要かについてもじっくりと検討をしてみたいと思います。

今年度は、平成23年度中に公益法人改革に対応した新法人としての申請をすべく、具体的な作業を進めます。そのために協会活動として実施している事業について、造園技術の特性を示し、

「街路樹剪定士」、「植栽基盤診断士」等の資格につきましましては、資格取得者の拡大とともに、関連工事の発注に際して、その活用が広がってまいりました。資格技術が、優れた技術であることを示すことにより、造園建設業の拡大に向けて、造園工事の事業拡大を図るとともに、造園工事の発展・活性化策について幅広い検討を進めます。

「VISION21」の推進を図るとともに、造園工事の発展・活性化策について幅広い検討を進めます。また、「造園施工管理技術」等の会員の資格取得に繋がるための講習会を開催し、能力開発の助成金を得て、順次全国で実施する取り組みをまいります。

公共事業の縮減等建設業を巡る環境は、まだまだ厳しい状況が続きますが、今後の経済施策の展開、業界活性化に繋がる活動等造園建設業界として、その動きを機敏に察知し、臨機応変に要望活動を展開してまいります。

本年度も造園建設業界を代表する公益法人としての意識を持って、会員の皆様とともに、造園建設業が、「環境の世紀」の主役産業となることを目指して、仕事領域の拡大等安定した企業経営が展開できるよう幅広い活動に取り組んでまいります。造園技術、それを駆使する造園建設業が、優れた環境づくり、景観づくりに、いかに強く結びついているかを、多くの人々に知っていただくことが、造園建設業の発展につながることを肝に銘じて多くの人々に造園建設業をアピールしてまいります。

設計施工一体化発注等入札制度改革で話題となっている課題を含め、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会との意見交換を実施し造園にふさわしいものづくりと評価のあり方について提案等を行う。

4. 植栽基盤整備技術の蓄積
植栽基盤整備の調査、診断 改良提案の実施に役立つ資料のとりまとめと歩掛

5. 街路樹に関する調査の検討を行う。
街路樹の樹形、剪定技術の評価基準に関する情報への取り組みの推進
生物多様性に対応した造園建設業界として、資源の有効利用の啓発を行い、講習会の開催等を実施する。

6. 造園空間の評価に関する調査研究
造園のおさまり集の取りまとめ等による、造園空間の出来栄を評価基準の策定

7. 環境にやさしい技術に向けた検討を行う。
労務費、市場単価についての調査研究に基づく改善提案等を行う。

8. 企業基盤の強化と活性化
「ひろげよう育てよう みどりの都市」全国大会、春季における都市緑化推進運動、全国都市緑化フェア、都市緑化月間、まちづくり

協会表彰 56 氏の業績など讃える



表功労表彰27氏、業績表彰13氏、勤続精励表彰15氏と「業界実践スロガン22」公募における入選者への表彰を行いました。会長から表彰状を手渡し、受賞者はお通(敬称略)。

総支部	支部	氏名	所属
北海道	北海道	嘉屋 輝夫	㈱園建
〃	〃	吉原 伸	吉原種苗㈱
東北	青森	野村 光男	㈱野村緑産
関東・甲信	茨城	内藤 功	第一造園土木㈱
〃	〃	天野 和彦	不二造園土木㈱
〃	群馬	菊地愛次郎	㈱菊地造園土木
〃	埼玉	伊豫部捷功	㈱美昌園
〃	〃	新井 悟	㈱桜グリーン
〃	千葉	佐藤 善一	千葉造園土木㈱
〃	〃	鈴木 一彦	㈱東松園
〃	東京	稲山 豊	㈱富士植木
〃	〃	鈴木 誠司	㈱日比谷アメニス
〃	〃	関根 武	内山緑地建設㈱東京支社
〃	神奈川	栗飯原 勉	㈱濱田園
〃	〃	野村 直樹	奈良造園土木㈱
〃	山梨	依田 忠	山梨ガーデン㈱
〃	長野	原 孝昭	文吾林造園㈱
北陸	富山	野上 忠一	㈱野上緑化
中部	静岡	小川 隆	㈱愛樹園
〃	愛知	丹羽 計仁	㈱庭正造園
近畿	福井	賀 徳成	㈱朝倉造園
〃	京都	野間 秀行	㈱野間造園
〃	和歌山	小嶋 康敬	紀北造園土木㈱
中国	広島	大原 久志	内山緑地建設㈱広島支店
四国	香川	角田 哲也	㈱藤田萬翠園
九州	福岡	藤田 良司	㈱九州造園
〃	佐賀	水町 雅之	㈱天山造園

「業界実践スロガン22」公募における入選者への表彰

氏名	所属
倉井 真里	㈱日比谷アメニス

総支部	支部	氏名	所属
北海道	北海道	城木 浩一	㈱グリーンガーデン
東北	山形	大嶋 勝	大嶋緑地造園㈱
関東・甲信	千葉	望月 勝保	藤木園緑化土木㈱
〃	東京	奥本 寛	㈱日比谷アメニス
〃	山梨	齊藤 陽一	㈱富士グリーンテック
北陸	新潟	根本 良治	㈱日建緑地
中部	愛知	中原 敏明	三河造園㈱
近畿	滋賀	吉川 政昭	㈱吉仁園
〃	京都	水田 俊宏	㈱水田造園緑地
中国	広島	福島 偉人	㈱有斐園
四国	徳島	松本 雍司	㈱松本観翠園
九州	熊本	濱 成光	㈱はま造園土木
〃	宮崎	田中 和紀	㈱園田グリーンセンター
本部	東京	和田 新也	箱根植木㈱
〃	中部	赤崎 幹男	アイシン開発㈱

総支部	支部	氏名	所属
東北	岩手	荒屋 明生	㈱光明園
関東・甲信	神奈川	奥江 信義	㈱井上農園
〃	〃	中村 喬	㈱湘南グリーンサービス
北陸	石川	南 實	中部緑地㈱
近畿	大阪	松本 充	㈱タイキ
〃	兵庫	坂口 正幸	㈱向内造園㈱
〃	奈良	越智 一馬	㈱ガーデンヤマト
中国	岡山	藤井 正明	㈱武田園
〃	〃	益田 昌昭	㈱山都屋
四国	愛媛	筒井 紀子	㈱ひらい緑地
九州	佐賀	中村 秋彦	㈱飛鳥緑化建設
〃	長崎	小嶋 秋生	八江グリーンポート㈱
本部	佐賀	松本 光男	佐賀県支部事務局

設計施工一体化発注等入札制度改革で話題となっている課題を含め、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会との意見交換を実施し造園にふさわしいものづくりと評価のあり方について提案等を行う。

4. 植栽基盤整備技術の蓄積
植栽基盤整備の調査、診断 改良提案の実施に役立つ資料のとりまとめと歩掛

5. 街路樹に関する調査の検討を行う。
街路樹の樹形、剪定技術の評価基準に関する情報への取り組みの推進
生物多様性に対応した造園建設業界として、資源の有効利用の啓発を行い、講習会の開催等を実施する。

6. 造園空間の評価に関する調査研究
造園のおさまり集の取りまとめ等による、造園空間の出来栄を評価基準の策定

7. 環境にやさしい技術に向けた検討を行う。
労務費、市場単価についての調査研究に基づく改善提案等を行う。

8. 企業基盤の強化と活性化
「ひろげよう育てよう みどりの都市」全国大会、春季における都市緑化推進運動、全国都市緑化フェア、都市緑化月間、まちづくり

第2 公園緑地、道路、河川、港湾、自然公園、学校等の緑化行政に対する協力

第3 造園技術の国際交流及び協力の促進

1. 国際園芸博覧会の認証機関である国際園芸協会(AIPH)の日本代表会員として、総会やスプリ

平成22年度 日造協

仕事領域の拡大など安定した



新任のあいさつを行う藤巻司郎新会長

ング・ミーティング等へ出席するとともに、国際園芸博覧会の開催並びに参加について支援・協力を。また、国際的に緑を活かした都市づくりを進めるGreen City活動に賛同し、情報の収集と発信に努める。

2. 名古屋市中で開催される生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)について、情報の収集に努め、COP10支援特別委員会を通じて、会議開催の成功を支援する。

3. 国際公園・レクリエーション管理行政連合(IFPRA)の会員として国際交流に努める。

4. 国際造園家連盟(IFLA)の会員、幹事として国際交流に努める。

5. 欧州造園建設業協会(ELCA)との情報交換を行う。

6. 国際樹木家協会(IASA)との情報交換を行う。日本での活動連携の検討を行う。

7. 海外の日本庭園の適正な維持管理を目的とした海外組織との連携を図り、新たな造園ビジネスの展開について検討を行う。

8. 海外の事業進出、受入など実務に役立つ造園緑化関連情報の収集と発信に取り組む。

とともに、人材育成と資格制度の普及、公的資格取得の推進、労働安全管理の推進、若年者の入職促進のための事業を実施する。

4. 安全運動の推進
高木剪定作業等の安全確保対策を推進するとともに、会員への安全啓発活動の一環として、安全週間、労働衛生週間の周知・啓発のためのポスターを作成し配布する。

5. 技術情報の蓄積と提供
各種造園関連技術の蓄積と共に会員間での情報共有を行うための「技術情報共有発表会」を開催する。

「造園工事は造園工業」という原則のもと「環境の世紀」における主役産業を目指して、臨機応変に必要な要望活動を展開する。

4. 造園工業として
「造園工業は造園工業」という原則のもと「環境の世紀」における主役産業を目指して、臨機応変に必要な要望活動を展開する。

1. 国土交通省、環境省等と意見交換を行う。
2. 緑に関連する税制の改正要望を行う。
3. 造園業活性化のための活動に積極的に対応する。
4. 造園工業として
「造園工業は造園工業」という原則のもと「環境の世紀」における主役産業を目指して、臨機応変に必要な要望活動を展開する。

1. 資格認定
① 登録造園基幹技能者(社)日本造園組合連合会
② 街路樹剪定士・街路樹剪定士指導員
③ 植栽基盤診断士・植栽

2. 認定試験
① 街路樹剪定士認定試験
② 植栽基盤診断士認定試験
③ 研修・講習会
④ 登録造園基幹技能者講習・特例講習
⑤ 街路樹剪定士研修会及び資格更新研修会
⑥ 植栽基盤診断・地盤調査実技研修会
⑦ 植栽基盤診断士補研修会

3. 研修・講習会
① 登録造園基幹技能者講習・特例講習
② 街路樹剪定士研修会及び資格更新研修会
③ 植栽基盤診断・地盤調査実技研修会
④ 植栽基盤診断士補研修会
⑤ 造園技術講習会の開催
⑥ 造園施工管理技士講習会の開催
⑦ 造園CPD(継続教育)制度の活用
⑧ 造園CPD協議会構成団体として制度の普及と会員の募集を行う。

9. 会員名簿の発行
10. 図書刊行
① 植栽基盤整備ハンドブック(改訂)
② 街路樹剪定ハンドブック(改訂)

新任挨拶

藤巻司郎新会長

本日は大変お忙しい中、国土交通省松田大臣官房審議官はじめこの様に多くの皆様にご臨席いただきまして、誠にありがとうございます。この会に先立ちまして、当協会の「平成22年度通常総会」が無事終了いたしましたことをご報告申し上げます。なお今年度は役員改選の年であり、佐藤会長の

後を不肖私が大役をおおせつかり、身の引き締まる思いでここに立たせていただいております。高い席からではございますが、新執行部共々よろしくお願いたします。

緑は人を、社会を、そして地球を豊かにすると共に、人の心に潤いとやすらぎを与えてくれます。

自然と共生し美しい景観の日本を子供たちに引き継ぐために、私たちは新たな緑を創り、失われた緑を再生するために会員一同頑張つてまいります。

経済環境や社会環境は、依然厳しい状況ではありますが、新しくスタートいたしました社会資本整備総合交付金制度を、緑・環境に対する、プロジェクト実現のためのチャンスとしてとらえ、積極的に提案をし、

生き物を扱う唯一の建設業としての自覚を持って、環境の世紀の先頭に立つてまいります。

それには、本日ご来会の皆様の更なるお力をお借りする事が不可欠です。

今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻をお願いすると共に、皆様の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

成家会長の後を引き継ぎ、変革の時代の中、円滑に協会活動を実施することを目指す念頭に置きながら、精一杯努力し、任期4年の満了に伴い、このたび退任することになりました。

「環境の世紀」、「緑の世紀」といわれています。

この中で、我々造園業界がまさに時代の主役として発展し、活躍するために申し上げる次第でございます。

我々を取り巻く、経済環境は大変厳しいといえます。しかし、この21世紀は、「環境の世紀」、「緑の世紀」といわれています。

藤巻氏は、大変有能であり、その見識は非常に高く、そのうえ「GNO」と言われる、義理、人情、思いやりの精神に満ちており、我が協会にとって、この「G

トップリーダーとして、時代の変化に対応した事業展開を率先して行つていかなければならないと痛感している次第です。

幸い今回、新会長に藤巻司郎氏が選任され、誠に心強く思っています。

藤巻氏は、大変有能であり、その見識は非常に高く、そのうえ「GNO」と言われる、義理、人情、思いやりの精神に満ちており、我が協会にとって、この「G

NO」の3つの精神がこれからです。大切になってくるのではないかと思います。

本日に長い間、皆様にはお世話になりました。今後の日造協のますますの発展を祈念するとともに、どうか皆様方におかれましては、藤巻新体制に絶大な支持をお願いいたします。どうもありがとうございます。

退任挨拶

佐藤四郎前会長

成家会長の後を引き継ぎ、変革の時代の中、円滑に協会活動を実施することを目指す念頭に置きながら、精一杯努力し、任期4年の満了に伴い、このたび退任することになりました。

「環境の世紀」、「緑の世紀」といわれています。

この中で、我々造園業界がまさに時代の主役として発展し、活躍するために申し上げる次第でございます。

我々を取り巻く、経済環境は大変厳しいといえます。しかし、この21世紀は、「環境の世紀」、「緑の世紀」といわれています。

藤巻氏は、大変有能であり、その見識は非常に高く、そのうえ「GNO」と言われる、義理、人情、思いやりの精神に満ちており、我が協会にとって、この「G

NO」の3つの精神がこれからです。大切になってくるのではないかと思います。

本日に長い間、皆様にはお世話になりました。今後の日造協のますますの発展を祈念するとともに、どうか皆様方におかれましては、藤巻新体制に絶大な支持をお願いいたします。どうもありがとうございます。

NO」の3つの精神がこれからです。大切になってくるのではないかと思います。

本日に長い間、皆様にはお世話になりました。今後の日造協のますますの発展を祈念するとともに、どうか皆様方におかれましては、藤巻新体制に絶大な支持をお願いいたします。どうもありがとうございます。

学会の目・眼・芽

第14回

「造園作品選集No.10 2010」(社)日本造園学会の刊行物である。第10号だが、隔年発行なので20周年記念号という位置づけだった。今回は、「造園作品選集」の中に、見られた・見られない、そして見られるべき造園建設との係わりについて紹介させていただきたい。

2009年、造園学会は85周年を迎えた。この間の学会活動の骨子を簡単に説明する言いがあろう。「日本造園学会は造園に関する、学術・技術・芸術に資する様々な活動を実践する」というものだ。学会刊行物もこの三つに対応している。「ランドスケープ研究」が学会活動全般をカバーし、学術面は「研究論文集」、技術面は「造園技術報告集」、芸術面は「造園作品選集」という対応である。日造協会員の皆さんには、「造園技術報告集」が最も身近に感じられる存在だろう。こちらは、現在報告を募集中、次号は第5号10周年の節目を迎える。

さて、造園作品選集刊行のねらいは当初より、「本会会員の社会的活動の所産になる、優れた造園作品」の報告発表、記録の場を設けて、その創作活動の質の向上への刺激とすること。また、造園家の業績としての創作、技術、実務分野の成果(造園作品)を、時代の記録とすると同時に、広く社会に主張すること」と規定されている。ここで、皆さんに考えていただきたいのが「造園家の業績としての創作、技術、実務分野の成果(造園作品)」というくだりである。

自身の反省を含め結論を言おう。造園作品選集の中に施工にあたった造園建設業の企業名・担当者名もつと登場すべしな。造園作品選集2010には51作品が掲載され、個々の作品紹介だけでも百頁を超えた。10号累積では370作品にもなる。しかし、造園作品を具体化した造園建設業の方々の名前(企業名・担当者名)が、作品ページの「施工」欄に登場しないページが結構多いのだ。施工欄に大手建設会社(造園建設業?)だけが記載されるだけであったり…。もともと、一方で造園作品の制作者名(応募者名)に、造園建設業の方々が名前を連ねている(至極当然である)作品も、多くはないがいくつかは見られた。第10号では作品募集の際、刊行の意義を「前号からは、経年作品を対象とするカテゴリ(エイジング部門)も新設され、こうした作品を評価、記録することは、造園の職域の多様性と、職能の意義に対する社会的な認識を高めてゆくうえで、本誌の果たすべき重要な役割」と位置づけられた。ここには、建設のみならず維持管理され、育て上げられて素晴らしくなった造園作品をライティングアップし、その管理担当者にも登場願おうという気持ちも込められている。

「造園作品」を形づくり 育て上げる造園建設業

また、「造園作品選集2010 国際版」を再編集した際に、世界から見た日本の造園作品について寄稿していただいたマーク・トライブ氏(カリフォルニア大学名誉教授)は、日本の造園設計(デザイン)と造園施工(実現されたデザイン)との特長的関係を以下のように指摘する。

「日本のデザインされたランドスケープにはデザイナー(設計者)と職人(施工者)との間の強い絆が感じられる。(中略)ここで、イメージされたデザインと実現されたランドスケープのデザインとの違いを指摘しなければならぬ。うまく実現されなくても目立って革新的なデザイン、美しく実現された平凡なデザイン、どちらが良いと言えるだろうか? 私たちはこの日本の造園作品選集に掲載された事例を通し、その両方のタイプのランドスケープデザインの可能性を見だし学ぶことができる。日本の造園の国際評価に際しては、わが国の、日本の、造園作品を形づくり、育て上げる造園建設業が、そして日本の造園家の役割がより意識されるよう、日本の社会のみならず、世界にアピールできるような「造園作品選集」の刊行を、皆さんの協力で実現していきたい。」

※紹介した日本造園学会刊行物は学会事務局で頒布中(送料別)です。問い合わせ先 ☎03-5459-0515, Email: staff@landscapearchitecture.or.jp、「造園作品選集2010」(2000円)、「造園作品選集2010 国際版」(日英併記特装版、5000円) 鈴木 誠 (社)日本造園学会理事、東京農業大学造園科学科教授

ウツ井樹園 古畳活用のり面保護工で

日本土木学会の環境賞を受賞

日本土木学会の平成21年 環境賞は、環境の保全・度土木学会賞・環境賞を会 創造に資する概念形成・理 員の(有)ウツ井樹園(三重県) 論構築等に貢献した先進的 が受賞した。 あるいは国際的な研究に対

ウツ井樹園 古畳活用のり面保護工で

今年度の受賞は、大成建設(株)との共同研究として実施された古畳を利用したヨシによるのり面保護工や押伏セマットなどのり面保護工の開発と生物多様性の高い森づくりが評価された。

委員会の活動

地域リーダー活動準備会 日本は景気回復の兆しを見せるとされるが、建設産業を取り巻く環境は依然として非常に厳しい。その中であって、造園には

二次製品との違い 35年ほど前になりますが、入社して初めて配属された現場は、当時東雲にゴルフ場があり、その真向かいの現場での公園工事でした。右も左もわからず、すべて下請けの親方さん職人さんに教えて貰いながら先輩について勉強した時の事です。すべてがとても印象深く覚えております。

ある日、植栽工事で使用する樹木の材料検査があり、当然ですがH/C/Wの寸法規格が決まられており、その規格に満たない物は合格しないとの事で材料検査が始まりました。この植栽工事の一つに延長30m程の園路の中央に4箇所ツリーサークルがありそこに植栽する木の規格のみこだわることなく、現場状況に合わせ将来に向けて考え、仕事を仕上げる事の大切さを教わりました。

足らず皆が心配しておりましたところ、検査員の方の判断は「H(高さ)は足りないが4本とも樹形が揃った良い木が揃っている」という事で合格となりました。木は生き物で育つので、寸法規格にばかりとらわれず、大きい物を揃えても完成した時が最高点(ピーク)であり、後は年々時間とともに品質等下降線をたどるのではないのでしょうか、逆に我々「造園」の原点である木を植える事は、植えたときがスタート(始まり)であり健全に立派に育つように考えて植え、年々時間とともに最高点(ピーク)へ向けて成長させる仕事だと思います。造園業も当然建設業です。スケールの違い等はありませんが「造園」の仕事にプライドを持って造園業を育てて行きましょう。

緑 滴

業界としてさらなる活性化の道を見出すため、造園建設業界に携わる者が、自らの持つ知恵と能力を最大限に発揮することにより、輝かしい未来を勝ち取ってゆこうと求められる。しかし、このような活動は、一社、一企業の活動のみでできるのではなく、(社)日本造園建設業協会の全国組織としての力を活用することで実現が可能となる。日造協会員相互の共通目的意識を醸成し、造園建設業界全体の大きな力となる全国的活動への展開に向けて、まずは総支部・支部という地域内において、自ら積極的に行動し、レベルアップを図りながら造園建設業界の明日を切り開くことにチャレンジする「地域リーダー」による情報共有交換の場を日造協本部が提供することとし、全国総支部から推薦された地域リーダーによる準備会合を開催した。

会合では、細田事業副委員長からの趣旨説明の後、自主的な活動を実現するための多くの意見交換、提案が行われ今後の活性化が期待される。(6月16日水)

資格制度検討会議 総務・技術・事業の3委員会の資格に関わる委員が集まり、日造協が行う資格制度(街路樹剪定士・植栽基礎診断士・登録造園基幹技能者)の方向性を審議する場である。平成21年度は植栽基礎診断士について重点的に審議し、有効期間の延長(3年→5年)やカリキュラムの変更、活用の強化を行った。今年度は委員会の改選期に伴い、街路樹剪定士が今後さらに活用されるための方針について検討し、新委員に引き継ぐこととなった。(6月9日水)

事務所の移転 九州総支部事務局(6月29日より) 移転先 ☎812-0046 福岡県福岡市博多区吉塚本町13-50、福岡県吉塚合同庁舎6階 ☎092-632-3347、FAX 092-632-3301、Email: s-kusyu@aic.or.jp (変更) 福岡県支部事務局(6月29日より) 移転先 ☎812-0046、福岡県福岡市博多区吉塚本町13-50、福岡県吉塚合同庁舎6階 ☎092-632-3301、FAX 092-632-3301、Email: fukuoka@aic.or.jp (変更) @max.odn.ne.jp

理事會 建設系CPD協議会 専門部會 登録造園基幹技能者試験委員會

7月 5月) 造園・環境緑化産業振興會事務局會議 7月) 総務委員會広報部會 AIPH唐山(中國)博覽會場査察(10日) 運管會議 8月) UR植栽基盤研修會 20月) UR植栽基盤研修會 21月) 植栽基盤診断士認定審査委員會 27月) 基幹技能者制度推進協議會總會 28月) 国土交通省と建専連との定例意見交換會 29月) 事務局局長會議

事務局の動き

6月 1月) 日本の景観とまちづくりを考える全国大会 (社)建設業専門団体連合會總會 3月) 登録造園基幹技能者特別講習(東京)

4月) 造園・環境緑化産業振興會事務局會議 監理技術者講習アキスト編集委員會 7月) 総務委員會広報部會資格制度検討會議 9月) 登録造園基幹技能者特別講習(京都) 10月) 財都市緑化技術開発機構通常理事會 14月) 東京インターナショナルフラワー&ガーデニング2010報告會 16月) 地域リーダー活動準備會 18月) 財建設業適正取引推進機構評議員會 22月) 平成22年度通常總會臨時理事會 23月) 財屋上開発研究會總會(財)日本造園修景協會

24月) 財屋上開発研究會總會(財)日本造園修景協會

25月) 理事會 25月) 建設系CPD協議會 30月) 登録造園基幹技能者試験委員會

日造協賛助会員の紹介 21 (株)リック 当社では造園・エクステリア設計専用の3次元CADシステムの最新版「RICKAD21 Ver.5」を6月に発売開始いたしました。最新版では設計・プレゼンテーションのためのツールという枠を超え、リフォーム需要の増加や長期優良住宅などで生まれるリピート顧客の獲得を目的とした機能を搭載。さらに現場写真を元に簡単に提案ができる機能や、緯度経度、日時に対応した日照シミュレーションに対応した3Dウォークスルーも可能に。フェンスやオーニングによる日よけ効果の見える化を実現します。

【東京本社】東京都港区南青山2-12-14、ユニマット青山ビル7階、☎03-5411-7891、URL: http://www.rickcorp.co.jp、担当: 内山



地域リーダー活動準備会の様子